

自己評価表

- 自己評価表は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めてください。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- **自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。** 家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービス成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないに関わらず事実を記入。)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	樹の里おおもり
(ユニット名)	花の棟
所在地 (県・市町村名)	横手市大森町字町田39番1
記入者名 (管理者)	加藤 智子
記入日	平成20年11月20日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時に職員全員で話し合い決めています。玄関やホールなど常日頃より目に付く所に掲げいつも心に留めて仕事をしています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々理念を元にご利用者に接しています。人として地域の一員としての役割、交わりを大切にしています。人として自然との交わり、ふれあい、季節を感じてもらうことを大切にしています。	○印 (取組んでい きたい項目) もっと地域の方々との交流を持っていきたい。ホーム開催の行事などへの招待や消防訓練などへの参加と協力願ってほしい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の皆様へはホーム開設時に説明行いまた玄関の見やすいところに掲示しています。家族の皆様へは入居希望段階時説明行い理解していただけるように努めています。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	掃除や散歩などで行きかうときも皆さん声をかけてくださっています。また自分の自宅で育てた野菜や花などを持ってきてくれたり、身内の方の相談などで訪れる方もおられます。	○印 (取組んでい きたい項目) 事務所までは遊びに来てくださるかたはいますが、ご利用者と一緒という方はいらっしゃらなく、棟の中にまで入って一緒にお茶を飲むような関係の方がいてくれたらなと願っています。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内のお祭り・行事への参加、近隣のシルバーエリア、大森病院、デイサービスセンターの行事などへの参加なども行なっています。ご利用者の皆さんもとても楽しみにされています。	○印 (取組んでい きたい項目) 夕方より開催の町内の夏祭りへの参加検討しています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣の方から自分の家のおじいさんがこんな状態なのだがどうしたらよいかとの相談あり、自宅訪問行いアドバイス行なったり、電話での相談にもきちんと対応行なっています。	○印 (取組んでい きたい項目)	キャラバンメイト養成研修に参加、今後認知症になっても安心なまちづくりのために少しでも役に立てれるように心がけていきたいです。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は上期・下期の年に2回行い勉強会などで皆で話し合い改善していくよう心がけています。外部評価、研修などに参加し知識を習得し、勉強会の開催にてみなで自分のホームにあわせた物を作り上げれるように頑張っています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームにおけるサービスの質の向上や地域に開かれた事業運営の観点から活動内容を報告し、評価受けている。必要な要望・助言をよく聞きGHの機能を利用しながらご利用者が安全で地域の一員として生活することができる支援に取り組んでいる。	○印 (取組んでい きたい項目)	日々の活動内容やサービス提供の方針、入居者の状態などを報告し今後も評価を受けていきたい。概ね2ヶ月に1度開催できるように努力していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携を蜜にすることが不可欠である。ホームにおけるサービス情報の提供、近郊のGHとの情報交換における情報の提供、入居者の家族からの相談・苦情等に対して迅速かつ適正に対処する市の指導助言・苦情相談等の連携体制を確保しています。	○印 (取組んでい きたい項目)	事業の運営や制度の情報等提供を求められた場合はその協力をおこなう。いろいろな機会に市町村担当者から情報提供いただいく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は研修に参加し知識を得ている、職員も勉強会を通して知識を持っている。	○印 (取組んでい きたい項目)	知識はあるが身近に頻繁にある相談ではないため忘れてしまったりする点があります、詳しい説明は行政に問い合わせるようになっています。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	他施設での虐待・事故のニュースがあったときは朝の申し送り・カンファレンス・勉強会などを通して注意を呼びかけています。言葉の暴力・威圧的な態度がないよう職員同士でも注意しケアに取り組んでいます。委員会を設置し定期的に勉強会開催おこなうよう努めています。	○印 (取組んでい きたい項目)	マニュアルの見直し行い樹の里オリジナルの物を作成していきたいです。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面接・契約時の説明と分からないときはその都度電話などで問い合わせいただき、納得いくまで説明行なっています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の話や訴え、希望はよく聞くように心がけています。居室や事務所など他の方が聞こえないような所で個別に話を聞きご利用者が話しやすい環境も心がけています。迅速に対応し早期に不安を取り除く努力をおこなっています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に話をさせてもらったり、請求書内の連絡事項にて報告行なっています。請求書は月に1度、そのほかに何かあったときは都度報告の手紙や電話入れるようにしています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・不満対応として外部の連絡先の説明と掲示、ホーム各棟入り口に投書箱の設置おこなっています。また話しやすい雰囲気心がけたり、こちらから何かありませんかと聞いたりし、迅速に対応できるように心がけています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々こうならないか？こうだったらもっといいのになどの発想を言いやすい環境に整え、話を都度聞き対応改善できる物は行なうようにしています。運営者も外部評価資料を参考に勉強会に参加、皆と話し合う機会を設けています。	○印 (取組んでいき たい項目) ザックバランに話せる機会をもっと多くとって行きたいです。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	都度対応できるよう職員連携取っています。また棟内で対応できないときは別の棟より協力をお願いしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の悩みを積極的に聞くようにしているので離職率は少ないが職員が変わる場合は利用者とのコミュニケーションを多くとるよう心がけ早くなじみの関係になれるよう努力してもらっている。	○印 (取組んでい きたい項目)	職員同士の連携を図っていくために今まで実施できなかった社員旅行など検討していきたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度の外部研修及びホーム内勉強会を計画策定し実施している。○JTも管理者が日々職員全員と意見交換をしながら実施している。	○印 (取組んでい きたい項目)	必要な力量を全員がもてるように教育訓練計画を立案し実施していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域医療懇談会及び秋田・横手のGH連絡会に積極的に参加し情報交換している。	○印 (取組んでい きたい項目)	運営推進会議の開催数を増やすことと同地域のホームの参加を検討していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレス予防に向けた職員環境向上について職員と話し合っている。	○印 (取組んでい きたい項目)	時間帯によってパート職員の増員を検討。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課表及び評価チェック表などを参考にして職員と話し合っている。	○印 (取組んでい きたい項目)	介護福祉士の資格取得を目指させたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前にご本人さんと面接を必ず行い、いろいろな話を聞くようにしています。その時はスタッフ2人体制で聞き逃しのないように対応したり表情観察もおこなっています。居宅の担当介護支援専門員さんからも過去のご本人の話を聞きケアに役立てるようにこころがけています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接時、入居時、入居後も常に聴き、受け止めるようこころがけています。時間や曜日に関係なくご家族さんの希望に沿うよう心がけ、対応できる範囲で対応しています。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をよく聞き、現状を把握するよう努めています。その方にあった生活スタイルの継続、ご家族の介護・不安の軽減ができる介護サービスの提案をさせてもらっています。行政担当者とも連絡をとり一緒に考えるようにしています。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	納得して気に入って入居される方もいらっしゃる反面、ご家族の都合で入居される方もいらっしゃいます。その方には入居後もご家族の方の協力を得て自宅への外出・外泊の機会を多く摂ってもらったり、面会や電話などでの連絡を頻繁にさせていただき孤独感を感じないようにしたり、家族・家庭とつながっているんだという安心感をもってもらえるように努力しています。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の仕方など日々の生活の中でできずかされること、教えられることは沢山あります。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族さんの協力なくして穏やかな生活はないと思っています。同じケアを行なうチームメンバーと考え、協力してもらえようお願ひしています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族さんに病気を理解してもらい、接し方や考え方を改善してもらったり、ご本人さんも穏やかに生活できるような空間の整備に努め精神の安定が保たれるよう支援したりし、今まで以上の関係になれるよう努力しています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	依然住んでいた地域への外出など行なっています。不安な気持ち・落ち着かない状況にならないように支援しています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	料理作り、畑作業、花植えなど皆さんと一緒に何かをしたり行事やレクリエーション活動を行いコミュニケーションがとれるよう支援行なっています。新聞を仲良く回し読みする姿は毎朝見られています。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院時の洗濯やオムツ補充、病院関係者と連絡をとり状況把握に努め家族さんの不安の軽減に努めています。自宅へ退居された方も声かけ挨拶等必ず行い相談事など話やすい雰囲気づくりに努めています。退居後もホームに遊びにきてくださる方もおられ、話を聴く時間を設けるようにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	概ねのタイムスケジュールや行事計画はありますがその方の体調や希望にあわせて変更行い対応しています。すぐに対応できない場合もいつならでいいのかスタッフ間で話し合い対応しています。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族さんから話をよく聞き把握に努めています。ご利用者同士の会話の中からもきずかされることがあります。ホームの職員には話さないことも外部の調査員さんには話したりすることがあり、教えていただくこともあります。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケアプラン項目以外にもその日の生活状況や突起事項を介護記録に記載し、申し送りにて職員間で情報を共有しています。バイタルや食事量摂取、排泄状況を一覧にし記載、健康管理に努めています。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	モニタリングや日々の申し送り・カンファレンス・勉強会など職員間で話し合える場を多くしています。また家族さんからも要望等ないか面会時など声かけ行なっています。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本、短期3ヶ月、長期6ヶ月で見直し行なっていますが入院、退院、介護度の変更や状態の変化時はモニタリング開催し、話し合い変更行なっています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々介護記録に記載行い申し送りにて情報の共有行なっています。1ヶ月ごとに介護経過記録記載行い計画の見直しに役立てています。インシデント報告書も活用し事故防止に努めています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	面会の家族さんへの食事やお茶の提供、家族的な雰囲気での肩のこらない対応を心がけています。車で来るのが困難なご家族さんへは送迎の支援も行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	災害時の対応のため消防より指導いただき訓練行なったり、医師の往診や薬剤師の訪問指導いただいています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	レベルの低下やアップによる他施設の検討や自宅復帰の検討を施設・在宅の相談員や介護支援専門員と相談し、検討行なっています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	実績なし	○印 (取組んでい きたい項目)	今後必要なときは地域包括支援センターよりご指導いただいでいく考えです。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○印 (取組んでい きたい項目)	今後医療連携を取ったとしても15人のスタッフ体制ではみとりは厳しく、ご家族の強い協力体制がないと実現不可能と思われます。現在協力が得られる家族さんはいません。皆さん病院への入院を希望されます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホーム内での生活状況等の情報提供おこなっています。移られた後も訪問し話しかけ行なうようにしています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個人情報保護に関する契約書を結び守秘義務を理解して勤めていただいています。日々のケアの中で自尊心を傷つけない言葉掛けや赤ちゃん扱いした言葉掛けがないよう職員間でもお互いに注意しあい気をつけています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自分でできることは極力やっただき、できないことへのさりげないケアを心がけています。やってあげます的発想、押し付けの介護にならないように気をつけています。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	すべての希望に添えるわけではありませんが、なるべく希望をかなえられるよう努力しています。買い物・とこ屋・散歩など入浴も決まった日以外にも希望があれば入浴していただいています。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	なじみの店にいけるよう支援行なっています。また近くのとこ屋さんが出張サービスの援助おこなってくれています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○印 (取組んでい きたい項目)	ご本人さんより希望があれば木の棟同様提供していきたいと思っています。
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布は持ってもっていますがほとんどの方が金銭感覚ない状況です。ご本人のクリームなどがなくなり購入する際など声かけ行い100円でも200円でもそこからいただいて職員がお使いで買い物に出かけて代わりに購入してきています。正規の代金はご家族さんより頂いています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や体調がよければ散歩や買い物の支援行なっています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ドライブや行事など立案・計画行い毎月何かしらの援助ができるように支援しています。結婚式への参加援助行なっています。	○印 (取組んでい きたい項目)	家族さんも一緒に参加できる行事をもっと多くしていきたいです。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話をかけたいときかけられるように支援行なっていますがほとんどの方使うことなく過ごされています。ご家族さんから定期的に電話いただいている方はおられますが耳が遠く上手く会話にならないため職員が間で話したりし対応しています。贈り物が届いた際は必ず電話や手紙でお礼の挨拶をご利用者と一緒に行なっています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族さんの面会は皆さん頻繁にありホールや居室にてお茶を飲みながら過ごされています。親戚の方なども遊びに来てくれています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修・勉強会等をとおして知識習得できるようにしています。委員会設置し拘束しなくてはならない場合に検討行っています。実施しなくてはならないときはご家族さんに同意をえて行い期間を決めて早く解除できるように努力しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	居室に鍵の設置はありません。玄関も日中はかけることなく、事務所担当者による見守りで対応しています。声かけなく外に行かれるご利用者対策のため、廊下に鏡の取り付け行ない見守り強化、把握に努めています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮し、そっと居室の戸をあけて確認したり、夜間も居室の電気をつけるのではなく懐中電灯など利用し、確認行なっています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫箱・はさみ持参のご利用者様がいます。時々裁縫仕事行なってもらい物品の数の確認行なうようにしています。また忘れてしまっている様子のときは危険防止のために預からせてもらうときもあります。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会にて知識学び、日々の観察にて危険状態の把握につとめています。個々の状態・病気に合わせて食事もとろみ剤やきざみ食・ブレンダー食を提供したり、薬は職員2名による確認行間違いがない様に対応しています。離設時のための緊急対応マニュアルも作成しています。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	すべての職員が対応できるように勉強会にて学んでいます。救急救命指導の受講を予定しています。また事故発生時もすぐに対応できるように緊急連絡網と、緊急対応マニュアルを作成しています。	○印 (取組んでい きたい項目)	緊急時にほとんどの職員があわてているのが現状です。定期的に学べる場を設け対応行なっていきたいです。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議にても協力依頼行なっています。災害訓練として年に1回大きな災害訓練行なっています。当年も11月に実施し、消化訓練・通報訓練も一緒におこないました。	○印 (取組んでい きたい項目)	今後、地震・火災・雪害などその災害にあわせた個々のマニュアルも作成していきたいです。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	現状報告、インシデント報告は必ず行なっています。面会時などもリスク説明しご家族さんからも介助支援おこなってもらうこともあります。ご家族さんとの外出や、外泊時は特に注意を促し事故が起きそうな点は書面にて渡しています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	水分・食事摂取量確認・排泄確認・与薬確認・バイタル測定など行ない早期に変化に気がつけるように対応行なっています。表情やいつもと違う行動なども日誌・記録に書きとめ申し送りにて情報の共有行い皆で早期対応できるように努めています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局よりいただくお薬表を参考に確認行なっています。ない場合もインターネットや本から探し確認行なっています。お薬係りを決め皆への周知徹底はかっています。薬局の訪問指導にて支援いただいています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	テレビ体操や散歩などで体を動かしてもらったり野菜など繊維質の物を多く取れるメニューの工夫をしたりしています。水分摂取量にも気を配り確認行なっています。下剤もご本人の症状にあわせたものを処方してもらい使用しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声かけ誘導行なっています。昼の口腔ケア習慣ない方、居室にすぐに帰ってしまうかたもいますが、居室内にてうがいおこなってもらい入歯洗浄は介助行なっています。入れ歯でないかたも自分で磨かれた後確認行なっています。お茶うがいに菌の繁殖と口臭の予防にも努めています。日に1度洗浄剤使用行い清潔に努めています。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1400～1600kcalの摂取量に努めています。その方の必要摂取カロリーや水分量を計算し把握に努め、提供行ない健康管理行なっています。とろみ剤もカロリー等を比べ個々にあわせた物を使用しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	ノロウイルス対策として日に2回のホーム内の消毒、外出後や面会者の手洗い・うがいの徹底など行なっています。マニュアルも作成し勉強会を通し学んでいます。各研修にも積極的に参加してもらい知識習得を心がけています。	○印 (取組んでい きたい項目)	マニュアルの整理と見直しをおこなっていきたいです。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週3回の買い物、魚屋の配達などにより新鮮な食材の提供に努めています。衛生面でも煮沸や消毒を定期的におこなっています。まな板や包丁なども数をそろえて使い分けおこない、予防に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花や畑で温かみ、家庭的な雰囲気を出すように心がけています。玄関も明るく開放的に、中が見えやすいつくりになっています。ご家族・ボランティアの方からいただいた装飾品にて飾りつけおこなっています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホールには花や装飾品で季節を感じてもらえるように工夫しています。トイレや浴室は危険がないようにあまり物を置かない配慮、ゴミ箱は大きめのふた付きバケツを使用し汚物類の匂い等の防止に努めています。異臭対応とし、換気や消臭剤使用し不快感なく使用できるように心がけています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席や畳のスペース、ソファなど設置し、ホール内でも1人で穏やかに過ごせる自分の居場所を確保できるように支援しています。居室に戻られて1人の時間を大切にされている方もいらっしゃいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ってきていただき、使用してもらっています。布団・食器・湯のみ・湯たんぽ・ぬいぐるみ・糸糸・写真もできるだけ飾り家族とのつながりを感じることができるよう心がけています。	○印 (取組んでいき たい項目)	まだまだ足りない方もおり家族さんの協力えていきたいです。なじみのものでもADL低下により危険なものになってしまうこともある様子です。危険のないものへの交換を上手にできるよう対応していきます。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除のときなどに換気行い新鮮な空気をいれるよう心がけています。温度・湿度計を棟内3箇所に設置し、エアコンの温度もこまめに調節、加湿器も使用し管理おこなっています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室などに手すり設置、アームバーや入浴用シャワーチェアなども使い分け危険がないように対応行なっています。個々のADLに対応し、シルバーカーや車椅子など使用してもらっています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	失敗に対しとがめることはせずに、やれることを思い出してもらえような声かけおこなうようにしています。やってあげます的発想ではなくやれない所をさりげなくフォローできるように職員は努力していますが車椅子の方が多くやってあげることが多いのが現状です。	○印 (取組んでいき たい項目)	トイレが重なることがあり危険防止のため介護者側の都合でやれることもやっってしまうことが多いです。余裕をもって介護できる職場をつくるために職員間でタイムスケジュールの見直しや人員の見直しを検討していきたいです。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物周囲を散歩できるように整備行っています。畑や花を植え、干渉したり育ててもらっています。花火やバーベキュー・スイカ割りなど行い楽しんでもらっています。	○印 (取組んでいき たい項目)	コンクリートで整備できない中庭の工夫を考えています。ひょうたんや、へちま棚を造り皆で干渉できるよう改善していきたいです。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員研修～やる気とスキルアップのためどんどん参加してもらっています。ご利用者様の外出支援～その方、その方に合わせホーム内だけにとどまらないよう支援行なってい